



プレスリリース

一般社団法人 日本原子力学会

2011年3月11日に発生した東日本大震災において、多くの方々が犠牲となられ、また被災されましたことについて心からお悔やみとお見舞いを申し上げます。

日本原子力学会は、社会的関心の高い科学技術である原子力の広範囲にわたる**学術・技術専門家集団として社会への情報提供を行うため**、本会の主要な活動等について、随時プレスリリースを行っています。今回は、「**原子力安全国際シンポジウム**」開催のお知らせです。

「原子力安全国際シンポジウム」開催のご案内

－福島第一原子力発電所事故の教訓と将来に向けて－

日時： 2011年10月31日(月)10:30～17:30、11月1日(火)9:30～16:15

会場： 秋葉原コンベンションホール(JR秋葉原駅前) <http://www.akibahall.jp/data/access.html>

主催： 日本原子力学会

共催： 日本保全学会

協賛： 日本原子力研究開発機構、日本原子力儀技術協会、日本原子力産業協会、電力中央研究所、
日本電機工業会

プログラム：

(プログラムはやむを得ない事情により変更となる場合がありますのでご了承ください)

※日英同時通訳付

10月31日(月) 10:00 受付開始

開会 10:30～10:50

開会挨拶 田中 知 (日本原子力学会会長)

来賓挨拶 細野 豪志 (環境大臣、原子力発電所事故収束・再発防止担当大臣、内閣府特命担当大臣)

講演 I 10:50～11:40

【福島第一原子力発電所の事故の概要と現状】

(1) (仮題) 事故の経緯と現状 中野 益宏 (日本原子力技術協会)

昼休 11:40～13:00

講演 II 13:00～14:20

【福島第一原子力発電所事故以降における世界の原子力発電を巡る動向】

(1) (仮題) 福島第一原子力発電所事故が世界の原子力政策と原子力安全政策に与えた影響、および現在の取組み状況 テューリー・ドゥジャルダン (OECD/NEA)

(2) 福島第一原子力発電所事故後の WANO および原子力産業界の活動強化
ジョージ・フェルゲート (WANO)

休憩 14:20～14:40

裏面へ



講演Ⅲ 14:40～17:30

【福島第一原子力発電所事故を踏まえた原子力安全に関する各国事業者の取組み】

- (1) 福島第一原子力発電所事故に対する米国原子力産業界の支援と対応
リー・ガード (INPO、米国)
- (2) フランス電力公社の原子力発電所における福島第一原子力発電所事故後の補足的な安全評価
ジルベール・モリッツ (フランス電力公社、フランス)
- (3) (仮題) ロシアにおけるチェルノブイリ事故後の安全確保の取組みと福島第一原子力発電所事故を踏まえた対策
オレーグ・チェルニコフ (ロスエネルゴアトム社、ロシア)
- (4) 福島第一原子力発電所事故を受けた安全対策について
合澤 和生 (関西電力)

11月1日 (火) 9:10 受付開始

特別講演 9:30～10:10

日本周辺の津波とシミュレーションの進展 首藤 伸夫 (東北大学)

講演Ⅳ 10:10～12:20

【福島第一原子力発電所事故以降の原子力安全に関する学会の活動】

- (1) 津波対策評価ガイドラインの策定 橋爪 秀利 (東北大学)
- (2) 事故の分析と教訓と技術的な対策 岡本 孝司 (東京大学)
- (3) 津波 PSA の策定と今後の見通し 山口 彰 (大阪大学)

休憩 11:10～11:20

- (4) 福島原子力災害に係る放射線影響分科会の活動 占部 逸正 (福山大学)
- (5) 福島第一原子力発電所から放出した放射性物質による汚染地域の環境修復に係る活動
井上 正 (電力中央研究所)
- (6) 事故の遠因とその対策 宮野 廣 (法政大学)

昼休 12:20～13:30

パネル討論 13:30～16:00

福島第一原子力発電所事故の教訓を生かした今後の原子力安全のあり方
ー設計基準外事象への対応ー

コーディネーター：奈良林 直 (北海道大学)

パネリスト：岡本 孝司 (東京大学)、橋爪 秀利 (東北大学)、更田 豊志 (日本原子力研究開発機構)、
水町 渉 (原子力安全基盤機構)、宮野 廣 (法政大学) 他

声明文集約・発表 16:00～16:10

田中 知 (日本原子力学会会長)

閉会 16:10～16:15

閉会挨拶 宮 健三 (日本保全学会会長)

本シンポジウムの取材申し込みについて

①氏名 ②所属組織 ③E-mail アドレス ④携帯電話番号 ⑤取材人数(記者、カメラマン、TV カメラの台数) を、10月27日(木)までに isymp@aesj.or.jp へお申し込みください。
なお、取材希望が多い場合、1社の人数を制限させていただくことがあります。

本件に関する取材等お問合せ先

日本原子力学会事務局 (富田) TEL : 03-3508-1261 / E-mail : isymp@aesj.or.jp